

令和7年度 第1回 蕨市スポーツ推進審議会 会議録

日 時 令和7年10月2日（木）

午後3時30分～午後4時55分

会 場 蕨市役所 2階 2-1会議室

出席委員／ 奥田昌利、宮原芳子、須賀敬史、畑中隆一、秋山滋雄、平田道義、宮寄直子、
椿智絵、大武勝雄、熊田宣俊 各委員

欠席委員／ 松田悦典委員

事務局／ 松本教育長

桑島生涯学習スポーツ課長、小柴生涯学習スポーツ課長補佐

1 開 会

2 あいさつ

奥田会長

松本教育長

3 新委員紹介

須賀委員（蕨市スポーツ協会選出）

4 議長選出

奥田会長を選出

5 前回会議録の承認

承認された。

6 議 案

（1）蕨市スポーツ推進審議会 副会長の選任について

蕨市スポーツ推進審議会条例 第5条第2項の規定に基づき、須賀委員を副会長に選任した。

7 報 告

（1）令和6年度 スポーツ関連 歳出決算報告について

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

(2) 令和7年度 上半期事業報告について

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 球技大会については、以前、この会議の中で「開催する目的を明確にする必要があるのではないか」というご意見をいただき、スポーツ協会としても支部長と話をした。運営する側の開催するための苦労は大きい。コロナの影響で何年間か大会を開催できず、それがいまだに大きく影響している。ここにきてやっと運営についてしっかりと検討できる状態になってきたと思う。

中央支部は、バッコーやストラックアウトなどゲーム感覚でできるニュースポーツを種目に取り入れるなどの工夫で、参加者の拡大に成功している。

委員： 広報活動が大切で、「いつ、どこで、何があるのか」をしっかりと広報することが必要だと思う。

委員： グラウンドゴルフを種目にしている支部が多い。この種目は、市民に定着し、定期的に練習しているところが多い。種目を考えるにあたっては、このように発展していくものを選んでほしい。

委員： 現場の大変さは理解している。

スポーツを通じて「幸せな町」「健康な高齢者」「子どもたちのスポーツ機会の創設」ということが上位概念であるならば、大会の参加者数の大小は重要。中央支部の成功例は、何が要因だったのかを議論すべきであり、広報活動についてもきちんと予算化して行ったほうがいいと思う。

さいたま市では、スポーツ大会の時などに、その子に合ったスポーツは何なのかを提案する測定会を行っている。例えば、「瞬発力・跳躍力があるのでバスケットが向いているかも」などを示し、それが家族で話すきっかけにもなるし、スポーツを始めるきっかけになっている。これは、ひとつの例だが、こういったものを取り入れることで新たな参加者を呼び込めると思う。

委員： 子どもたちが楽しく遊べることが何よりで、そのためにはレクリエーション協会も協力したい。

会長： 5支部が球技大会を継続していくためには、学校や子ども会など関係団体と一緒に取り組んでいくとよいと思う。

委員： 水泳大会については、選手や携わる役員の負担軽減や体調を考慮して、午前中で終わらせるよう運営している。子どもたちが楽しみにしている宝

探しもやりたいとは思いますが、熱中症のリスクを考え、競技が終わったら帰っていただけるようにしている。

今年の水泳大会の申込者数は79人で少なかった。コロナ前は130人～140人程度の申込があった。

参加要件としては、「蕨市在住・在勤・在学」としているが、これに蕨市内のスポーツクラブに通っている人も参加できることとしたい。普段、同じスポーツクラブで練習しているのに、市外だから参加を認めないというのはかわいそうだなと思っている。「在スポーツクラブ」も参加できるといいと考えるが、皆さんのご意見を伺いたい。

委員： 他市の水泳大会の状況はどのようなか。また、「在スポーツクラブ」を認めると、スポーツクラブ対抗のような色合いが出てしまわないか。

委員： 戸田市は、「在スポーツクラブ」は認めている。単純に一緒に泳ぎたいと思うだけで、スポーツクラブ対抗にはならないと思う。

委員： 今の参加要件であれば、同じクラブに速く泳げる子がいても、その子が市外在住であれば蕨の大会には参加できず、自分にも入賞のチャンスがあるから頑張るという子もいると思う。仮に、「在スポーツクラブ」の子の参加を認めるとしても人数制限などは必要ではないか。

委員： 参加者が減少しているのは、泳げる子が減っているからではないか。小・中学校で泳げる子の割合はいかがか。

教育長： 水泳授業の民間委託を実施している小学校では、スポーツセンターのインストラクターが泳法を指導しており、泳げない児童が泳げるようになっている。

委員： 中学校でも25mを泳げないという生徒はほとんどいない。

委員： 水泳連盟では8月に子ども向けの水泳教室を開催している。この教室は、水泳をはじめるきっかけを担っている。参加者やその保護者から「また、やってほしい」との要望が多く、今年は10月にも実施予定。通年使えるプールがあれば継続して教室が出来るが、残念ながらそうではないので、続けたいという方にはスポーツクラブを案内している。

委員： 参加者数の減少については分析が必要だと思う。去年は人が集まりにくいと思われた8月のお盆の時期に実施して申込者は100人超、一昨年は7月に実施し130人超の申込があった。

大会に関する広報の問題なのか等、人数が減った要因を考え、それを来年度の実施につなげていくべき。

委員： 水泳教室に通ってくれている子にも参加を呼びかけられるように、ビート板競争など初心者でも参加しやすい種目を取り入れるなど工夫が必要かと思う。

委員： 他市在住の方も参加も認めれば参加者数は増えるかもしれないが、市民の参加が少なければ意味がない。他の事例でもルールを緩和し、例えばそれまで認めていなかった「在スポーツクラブ」を認めることもあるようだが、それでよいのかは非常に難しいところ。

委員： 子どもたちの泳力を養うことは大切なことである。体力づくりだけではなく、水難事故に遭った時にも泳力は必要である。そう考えると、大会参加者を増やすことは、子どもたちの泳力を養うことにつながるものであり、参加者を呼び込む手段として、楽しめるイベントを取り入れるのもいいと思う。

委員： 昔は午後２時頃まで大会を実施しており、シンクロナイズドスイミング（当時の名称）や水球などを披露するイベントも行っていたが、今は、午前中で終了とするため、なかなか難しい。

事務局： 今年度の水泳大会は、高校の大会と日程が重なってしまい、例年参加してくれる高校生の参加がなかったことも、申込者数の減少につながった。

大会については、選手やスタッフの体調を考慮したり、場内での動線の確保が必要だったりといった点でも、来年度どのように開催するかは、今後、話し合っていきたい。

（３）社会教育施設に係る 指定管理者の選定について

上記のことについて、Ｒ８年度から５年間分の市民体育館・プールの公募について事務局から報告があった。

会長： 市の施設は市民の方に利用してもらわないと意味がない。指定管理にしたことで利用者が増えたりしたのか。

事務局： 自主事業として、例えば市民体育館アリーナでスポーツ等の教室を行うなど、民間企業のノウハウを生かした事業を行い、市民の方に参加してもらっている。

会長： 蕨市に限らず、他市の施設の指定管理も引き受けている事業者であろうから頑張ってもらわないと、と思う。管理費用も安くはないので。

委員： 指定管理料についての推移はいかがか。指定管理者の努力で、例えば自主事業をたくさん実施して参加費収入を増やすことで、その分の指定管理料を減額しているなど・・・。

事務局： 前期の５年間分から今期５年間分に変更する時も指定管理料は上がっていた。自主事業は開いてもらっているが、指定管理料を減らすまでには至っていないというのが現状。来年度以降の指定管理料はまだわからないが、人件費や物価高騰の影響を考えると減額するのは難しいのかもしれない。

委員：自治体によっては、市民が利用することがベースではあるものの民間の指定管理業者としての自主事業の幅を広げ、その収益をもって指定管理料を少しでも抑える提案を求めるところもあり、考え方にもよると思うがひとつのやり方ではあると思う。

8 その他

委員：本日示された「令和6年度の決算」には、学校体育館の照明の交換修繕や夜間照明の交換修繕の費用が含まれているのか。

事務局：校庭の夜間照明は「体育施設管理費」に含まれているが、学校体育館の照明については、本日ご報告した科目からの支出ではないため含まれておらず、お示ししていない。

委員：体育館の照明が切れてもなかなか交換してもらえないという話を聞いた。学校の施設の修繕は行政の責任だと思うが、ある中学校では卒業式前に体育館の照明が6基切れていたが、なかなか修繕をしてもらえず、そんな状態で卒業式を挙行するのはかわいそうだとPTAが負担して修繕したと聞いている。学校からは修繕についての要望は出していたと思うが・・・。

委員：詳細はわからないが、照明に使用している水銀灯は費用も高く、6基全ての球を交換することが出来なかったのかもしれない。また、電気の球はいつ切れるかわからないため、用意していた予備も足りなかったのかもしれない。

委員：ところで、中学校部活動の地域移行（地域展開）は進んでいるのか。

教育長：今年度の「地域展開」は、昨年度までの柔道、剣道、陸上に水泳を加えて4種目で実施している。今後はスポーツ協会へお願いすることも含めて検討したいと考えている。

委員：第二中学校のソフトテニス部は、軟式庭球連盟の方に外部指導をお願いし、学校総合体育大会で3年ぶりに県大会出場を果たした。生徒たちにはとてもいい経験となった。

委員：水泳連盟でも春頃、中学生を対象に「強化練習」を実施した。中学生の頑張りにより、リレーで関東大会出場を果たし決勝まで残った。

次回のスポーツ推進審議会は、令和8年3月頃を予定。改めて通知する。

9 閉 会

須賀副会長あいさつ

午後4時55分閉会